

## 巻頭言

# 「最悪のスタート」ながら

東包印刷㈱  
関東グラビア協同組合 副理事長／全国グラビア協同組合連合会  
副理事長 安永研二



### ◆いきなりインフルエンザ?!

2020年、令和2年がスタートして早やひと月余りが経ちました。

「新年、明けましておめでとう御座います。旧年中は大変お世話になりました。本年も宜しく願い申し上げます」と、本来であれば新年早々の賀詞交歓会等でご挨拶するところ、皆さんとお会いする事も叶わず、私自身としては、最悪のスタートとなってしまいました。

本年は、1月5日が日曜日であったこともあり、ほとんどのところで、1月6日(月)に一斉始業。私も6日には挨拶回り、明治神宮参拝、7日(火)には挨拶回り、東包印刷の2工場への訪問、と云う具合に順調にスタートを切ったつもりでした。

ところが3日目の1月8日(水)朝、事件は起きました。床を離れたところまでは良かったのですが、「倦怠感」「悪寒」「頭痛」「節々の痛み」等があり、熱を測ったところ37.7℃(普段の私の体温は36℃あるかないかで若干低めです)あり、更に、「吐き気」「むかつき」があって殆ど食べ物が咽喉を通らない状況、これは「インフルエンザ」かもしれないと思い、即会社に電話を入れ、「まだ医者には行ってはいないが、症状からしてインフルくさいので、今週は休むから賀詞交歓会等欠席の連絡と、行けるところは代理出席宜しく頼む」と連絡し、まずは床に戻り、その後、近所のクリニックで診断してもらったところ、鼻の粘液・血液検査の結果は、何とインフルエンザA型・B型とも陰性。インフルエンザと言われたほうがかえって良かったかもしれないと云うような妙な気分にもなりましたが、いわゆる「風邪」という診断を下され、代謝療法と称し、「頓服」や「総合感冒薬」を含め6種類の薬と、うがい薬のみを渡され、抗生物質はくれませんでした。

更に、医者も看護師も真に「保身マニュアル」でもあるのかと思いたくなるほど事務的で、既に腕まくりをし、親指を内側にして曲げ、待っていた私に、

看護師 「採血しますから腕を出して、親指は内側に」

私 「……」

※採血は今までの看護師の中でも一番下手で、採血後一週間ほど内出血があり、俗に云う「アオタン状態」

更に、

医者 「粉薬は大丈夫ですか」「タブレットは飲めますか」

私 「普段から服用していますので大丈夫です」  
医者 「インフルエンザの予防接種はしていますか」  
私 「昨年11月上旬にA型・B型の2種類をやってもらいました」  
医者 「それはA型・B型の両方ですか」  
私 「今そのように言いましたが」  
医者 「それはいつ頃ですか」  
私 「11月上旬と言いました」

他にも違和感を禁じ得ないことはありましたが、何より、医者が目の前のコンピューター操作に終始し、こちらを大して見ずに作業をしていることには閉口しました。

さて、今度は1月10日(金)の朝、娘が発熱、私と違う病院に行ったところ、インフルエンザA型という診断で、その日のうちに何と体温が40℃まで上昇。改めて妻に、「あなた、本当はインフルなんじゃないの?!」と言われる始末。結局、1月8日(水)から12日(日)までは寝たり起きたりで、体温は2日目に39℃弱まで上昇、体重は3kgちょっと落ちましたし、何かすっきりしないまま、13日(火)には出社、インフルエンザ陰性も含め従業員に説明したところ、「社長、何かやばい病気なんじゃないですか」と疑われる羽目になりました。

全国グラビアの皆さんとは、1月17日(金)の理事会・賀詞交歓会で本年、初めてお目にかかることができましたが、「安永さんがいなかったので静かな年明けだったよ」「鬼のかく乱ですか」と云うようなお褒め? のお言葉を頂きましたし、理事会では、最初のうちは体調のこともありおとなしくしていましたが、途中説明が必要な場面があって、つい熱心になり大きめな声でお話したところ、「やっぱり安永さんはシャベルと元気になるんだね」トホホ……。普段が普段なのでそれも仕方がないのかもしれませんが、とにかく、最悪のスタートとなったことは事実のようです。ところが、実はもう一つオチがありまして、翌18日(土)は、かねてから予約を入れていた事もあって、若干無理を押ししてゴルフに行ったところ、極寒プラス昼頃からの降・積雪のため、12ホールで中止になってしまいました。私、何かよっぽど良くないことしましたかね(汗)。

## ◆新年に感じたこと

新年、特に三が日は、穏やかで風もなく過ごしやすいスタートとなりました。毎年恒例の1月2日・3日の箱根駅伝も絶好のコンディションだったと思います。結果、10区間中7区間で区間新記録、トータルでも優勝した青山学院大学は、217.1kmを10時間45分23秒(従来は昨年東海大が記録した10時間52分09秒)と云う驚異的な新記録で走破したことは記憶に新しいのではないかと存じます。

何が凄いのかお分かりになりにくいと思いますが、例えば、平均時速20kmと云う人間としてはかなりのハイペース(ママチャリで20kmの距離をこのペースで走ることはかなり困難)で走ったとすると、18秒/100m(俗に云うキロサン=1kmを

3分ペース)となり、それを217.1kmに換算すると、10時間51分18秒かかることとなります。従って、青学の今回の記録が、いかに凄いかがお分かりになると思います。マスコミどもはたいして調べもせず、「ナイキ製 ヴェイパーフライ」と云う、厚底のばね仕掛けのようなシューズのおかげだと言っているようですが、確かに、最近の駅伝競走等を見ていると、どの大会でも記録更新のラッシュになっているので、要因の一つであることは否めませんが、シューズに対する向き不向きもありますので、選手が履きこなすための努力や、各チーム・大学等のレベルアップ、当然、レース当日のコンディションも忘れることはできないでしょう。

また、今年の箱根では、俗に云う繰り上げスタート（交通事情等により往路は、鶴見・戸塚中継所でトップ通過から10分、平塚・小田原中継所15分、往路トータル先頭から10分以上は復路一斉スタート、復路その他の中継所は20分）については、復路一斉スタート（6区）で、8大学プラス関東学生連合の9チーム（去年は今年より2チーム多い中で7大学プラス関東学生連合の8チーム）おり、トップチームと差があるように見えますが、各区間の繰り上げスタートを見ると、去年は往路で2チーム、復路8→9区で2チーム、9→10区で4チーム、今年は9→10区で3チームのみとなっていることから、下位チームの底上げが進んできたと云えるのではないのでしょうか。

毎年のように、繰り上げに泣いていた国士舘大学が、8年ぶりに復路一斉スタート組とはいえ、10区間を一本のタスキで繋いだことは、ある意味特筆すべきことかもしれません。

更に、今大会の5強と言われた大学の内、駒澤大学がトータル8位、東洋大学がシードギリギリの10位と惨敗、逆に予選会上がりの東京国際大学が5位に躍進したように、予選会校からでも上位に食い込むようになってきました。つまり、伝統校だから固定概念的に強いとは限らない、逆にスカウティングと育成を頑張れば、過去にそれほどの成績を上げていないような大学でも、上位に食い込めることを証明できたことと云うことです。それにしても、昨年東海大学に負け、その上やたらとテレビに出まくって、一部批判を受けていた原 晋監督率いる青学の強さには驚愕せざるを得ませんでした。

ちなみに青学は、今年からナイキの「ヴェイパーフライ」を採用したのですが、他のトップチームについては、昨年既に採用している選手がいたことからすると、去年も、もしかしたら青学がトップだったのかもしれませんが。いずれにしても、イギリスのメディアが、「ヴェイパーフライ」の禁止を、世界陸連が発表するかもしれない旨の記事を出しましたので、今後の事はよく分かりませんが、規制を含めた何か知らの結論を出すのかもしれませんが。（1月末現在のプレス発表では、オリンピックまでは全面禁止をしないそうです）しかしながら、元々長距離選手は、怪我（故障）をしやすい、それを防ぐために作られたシューズですし、ナイキ以外のメーカーも似たようなものを開発していますので、私個人としては、「行き過ぎたものだけは若干修正して、

基本的にはこのままでよい」とは思っています。だって、私のようなヘボゴルファーでも、今更、パーシモンヘッド（木製）と、スチールシャフト、更には、糸巻きボールには戻れませんから。

さて、新年に何を感じたかと云うことですが、箱根駅伝に例えれば、私個人の今回の病欠については、繰り上げスタートではなく、アクシデントによる棄権となり、チームも個人も記録さえ残りません。1年間かけて厳しいトレーニングや練習をし、万全の準備をしたのにも拘わらず、本番は、自分自身の管理不行き届きによって、チームや大学関係者の努力を含め全てをフイにしてしまったのです。私の場合は、企業や業界活動等において、私ごときがその場になくとも、特段に何かしらの支障をきたすことはないでしょうが、その考え方はあまりにも無責任であり、どれだけ周りに迷惑を掛けたら気が済むのだと言われても一言もないのです。

また、青学の原監督はていたらくのチームを立て直すため、4年生4人を退部させ、更に、365日の練習の中で、箱根の区間を誰が走ったら良いのかを、毎日シミュレーションしたそうです。4人の退部については、いわゆる「パワハラ」ではなく、生活の乱れや学業を疎かにした理由で、監督自身が断腸の思いで行ったそうですし、シミュレーションについては、箱根駅伝優勝の目標を掲げ、そこに向けて様々な視点で分析し実行する、真にSDGsに例えるなら、ゴールとターゲットを完璧なまでに設定・実行し、結果を出したことに他ならないのです。

更に、「ヴェイパーフライ」の採用については、青学本来の契約は「ナイキ」ではなく「アディダス」でした。原監督が「アディダス」に対し、どのような交渉をしたかどうかは知る由もありませんが、箱根を走る以前に、他のトップチームに劣る訳にはいきません。やはり、最新の文明の力というものは、目的や目標を前提に、自らの意志で使って初めてなんぼの世界であって、意味をなさない「スマホ依存症」の連中のように、使われてはいけないと云うことなのでしょう。そして、箱根駅伝の表彰式では、「アディダス」のシューズを、青学の選手全員が履いていたことも付け加えておきたいと思います。

もう一つ忘れてはならないことは、前述の東京国際大学と国士舘大学です。歴史もなく、規模的にも小さく、弱小だった大学（チーム）でも、目的と目標をしっかりと意識した上で、取り組みの仕方を考え実行できれば、レベルの違いはあるかもしれませんが、少なくとも、今、自分達がいる位置からは上に行ける可能性が高いと云うことです。我々中小企業にも通じることだと思います。実行に関しては、コンディショニングを含め、高い意識と、自己管理を怠ることがなければ、それなりのポテンシャルを本番で生かすことが出来得るのではないのでしょうか。

単に、意味も解らずマニュアルだけを設定し、実行しようとしても、選手や従業員は走ることにすらできないでしょうし、マニュアルだけを守っていれば、失敗しても、不良品を作っても自分は関係ない、自分のせいではないとなれば、いずれは消えていく運命が待っているのかもしれない。



## ◆結果を求め、声を上げ実行する

軟包装の業界は、私ごときが申すまでもなく、資材メーカーの業界として、厳しい状況が続いています。今は亡き川田善朗会長や、現田口 薫会長を筆頭に、我々は今まで業界活動を通じ、様々な取り組みをしてきました。その一つ一つはすべて尊く、非難されるべきものではありません。しかしながら、商慣行の変化や小売りの台頭、働き方改革、更には環境問題と云う具合に、我々を取り巻く環境は変化を続けています。特に、プラスチック循環問題（海洋・マイクロプラスチック）については、確かにプラスチックが無くなることなど有り得ないでしょうが、だからと云って、何もせず、従来通りの事をやっていたら良いとお考えでしょうか。

ストローの件もそうですが、例えば、「クールビズ」の影響で生活習慣自体が変わり、「夏用スーツ」や「ネクタイ」が激減したり、中国発の「新型コロナウイルスによる肺炎」で死者が発生、更なる感染拡大を防ぐための渡航禁止等によって観光需要減が起き、結果として経済マイナス効果が拡大、逆に、性能の良い日本製マスクや抗菌シートが爆買いされ、欠品など異常な需要増が起きる等々、やはり、プラス・マイナス効果を含め、それが一時的なことなのか、恒久的なことなのか、直接・間接問わず携わっている業種・業界は何かしらの影響を受けることを、自然発生的なものも含め環境・生活習慣の変化については、常に意識しておくこと、更に、しっかりとした分析の基に「様々なシミュレーション」をし、冷静に実行することこそが、結果を出すための、時代に即した企業活動ではないでしょうか。

残念ながら、当業界の最大課題である「ハイリスク・ローリターン」については、改善されるどころか、より厳しさが増してきています。また、以前にも申し上げましたが、軟包装としての実需については、個々の「小売り」の思惑等も含め、8%位は少ないのではないかとされています。注文を取るためだけに終始し、ユーザーの提示する取引条件を丸呑みしていれば良い時代ではありません。

ところで、いよいよ公正取引委員会が「楽天」に対し、楽天市場出店者への「送料無料」の協力要請が、「優越的地位の濫用」に当たるのか否かを調査するとのプレス発表がありました。私個人の意見としては、「楽天」の出店者に対する協力要請は明らかに強制であり、「いずれは出店者様に利益をもたらすこととなります」などと、全く当てにならないことを平気で発言すること自体が、あまりにも無責任であり、濫用行為そのものを、「理解していないどころか、理解しようとしもない」証拠ではないかと考えています。

また、濫用行為を受けた出店者が、ご自分の懐の中だけで、その負担を処理してくださいればまだ良いのですが、過去の例からすると、どうもそのようになるとは思えません。やはり、直接的な事ばかりだけではなく、間接的な事も配慮して、当問題も含め結論を出して頂きたいですね。法律的に難しいことは重々承知をしていますが、

話は変わりますが、最近になって、やっと「楽天」の出店者もそうですが、セブン

イレブンのフランチャイズ・オーナー会の方達も、様々な事例が出るたびに声を上げるようになってきました。だからと云って、即結果となって現れるのかどうかは分かりませんが、黙っていれば、協力という名の強要などは改善される訳もなく、気が付けばどうにもならないことになったとしても、その時点で果たして何ができるのでしょうか。

幸い、全国グラビアにおいては、行政に対する取り組みを含め、活動自体が活発化をしてきました。皆さんからも「取引上の不条理な悪しき事例」等も多数頂けるようになり、**声を上げ実行する**下地が整いつつあります。

また、関東グラビアの、山下雅稔副理事長のGP普及活動、赤穂昌之副理事長が奮闘している外国人技能実習制度の件については非の打ちどころのない活動内容と思いますし、「厳しさと優しさ」を兼ね備え、我々中小企業の心強い味方である柴田里香弁護士も、とても大きな存在として活動されています。本来であれば、もっとたくさんの方のご紹介をしたいところですが、名前を上げればきりが無い程、多数の具体的な活動（例えば、中小企業庁のヒヤリング等への参加）がされていることをご報告し、ご勘弁を頂きたく存じます。そして、その一つ一つが、全て今後の、「結果を求め、声を上げ、実行する」に向けての、評価に値すると申し上げてもよろしいのではないかと思います。勿論、全てを掌握した上で、ご指示下さっている田口会長には、ただ単に「感謝」と云う言葉では言い表せないものがあります。

さて、声を上げ実行する下地が整いつつあると申し上げましたが、今、当業界の現状を打開すべく、「軟包装イメージアップキャンペーン(仮称)」をたたき台としてご提案申し上げ、大手コンバーター、原材料メーカーさん等、多くの方々にご賛同頂いております。関東グラビア理事の皆さんからもご意見等頂戴し、目的は、

### **「軟包装（フレキシブルパッケージ）業界の地位向上と、当業界の企業経営の安定化を目指す」**

に固まりつつあります。今後については、様々な委員会等を立上げ、広くサプライチェーンや、関連及び他業界の皆さんからもご意見等を頂き、より良いものに仕上げ、具体的な活動へと繋げていき、結果を出していきたいと思っております。

### **「箱根駅伝の選手は、嫌でも声を上げ実行していることと同じである」**

今年の箱根駅伝も、全ての大学と関東学生連合のチームが、それぞれ思いの詰まった目標を立て出場しました。当然のごとく、毎年、チームや個人として各々目標を立てる訳ですが、学生スポーツは、最高でも1人当たり4回しか参加することはできません。その制限の中では自ずと、その年はチームとして層は厚いのか、流れを変えるような「エース」はいるのか、山の登り下りのスペシャリストはいるのか、選手自身のコンディションは良いのか等々と云った具合に、その年のチーム状況は毎年変わり、監督や選手が思い描いている目標通りにいくかどうかについては、非常に難しい状況にあると思っております。

個人としてみれば、驚異的な区間新記録で区間賞を取った東洋大学の相澤 晃選手や東京国際大学のイエゴン・ヴィンセント選手、チームの優勝を決める走りをした選

手、シード権を確保する走りをした選手のように、真に「格好良く、チームにも貢献した」選手も、もちろんいましたが、期待されて出場したのにも拘わらず、区間最下位になった選手、他大学の選手に抜かれまくった選手、たすきを繋げられず泣き崩れていた選手のように、まったく自分が思い描いていたものとはかけ離れ、更には、チームに貢献できなかったばかりか、大きな迷惑を掛けてしまう結果に終わった選手もいました。

テレビ（メディア）とは残酷なものです。良い結果をもたらした選手に対しては、その結果について最大限の賛辞を贈り、讃えることは見る側にとっても心地良く、とても良いことであるとは思いますが、目を覆ってしまいたくなるような悲劇でも、全て映し出し、更に、アナウンサーは、その悲劇をオーバーに煽るような発言もしていました。もし、精神的に弱い人間であれば、下手をすると一生「トラウマ」になりかねないものまで、自らのシナリオとして伝えてしまうのです。目標を立てて走った本人にとっては、結果を求め、声を上げ実行したことと同じであったのにも拘わらず、結果としては、本人やチームにとって求めたものとはかけ離れ、精神的にも追い込まれる状況を演出したのです。それでも当の本人達は、その悲劇を真摯に受け止め、翌年のリベンジを誓い、卒業する学生は、謙虚に後輩達にそれを託す発言をしていました。

さて、

「自分にとって不都合なことは隠蔽」

「沈黙は金」

「言っても無駄」

等々、声を上げないほうが良いと考えていることはないでしょうか。過去のある場面において、私にもそのような経験はあります。しかしながら、市場側に伝えておかなければいけないこと、これだけは理解して頂かないと供給もままならないこと、更には、我々はボランティアではなく営利目的の事業をしているのだと云うこと等を、言葉を選びつつお伝えしていくことも、当業界にとっても、一企業としても、そして、市場側に対しても大変重要な意味を持つのではないのでしょうか。

冒頭に申し上げました通り、私にとって今年は、最悪のスタートになってしまいましたが、まだまだ残った時間を考えればやれることは多くあります。

本年は、「東京オリンピック・パラリンピック」が開催され、また、海外でも、その国の行く末を決めるような国政選挙も多数あるように聞いています。更には、異常気象や中国発の「新型コロナウイルス」の世界的な感染、米中摩擦等経済的な事も含め、我々に直接・間接を問わず、大きな影響を与えることもあるかもしれません。冷静かつ具体的に対応し、一喜一憂することなく、結果を求め、声を上げ実行して参りたいと存じます。

では、最後に馬鹿の一つ覚えで恐縮ですが、恒例のフレーズで、この駄文を締めさせて頂きます。

本年が良い年でありますように……。

全グラ・関東グラビア・関東プラスチック印刷新年賀詞交歓会 ―

## 「軟包装イメージアップキャンペーン」を展開

### 軟包装業界の地位向上、行動する全グラへ

2020年1月17日（金）午後3時30分より、東京・ホテルニューオータニ アーケード階「麗の間」において、全国グラビア協同組合連合会、関東グラビア協同組合、関東プラスチック印刷協同組合の3団体合同の新年賀詞交歓会が開催されました。当日は、衆議院議員の石原伸晃氏、海江田万里氏、経済産業省商務情報政策局コンテンツ産業課の高木美香課長、富田 智課長補佐、狩野恵介係長、松島弘和係長、東京都中小企業団体中央会の大村功作会長、小野塚一彦事務局次長、（一社）日本印刷産業連合会の杉村亥一郎専務理事、小野隆弘常務理事、小澤典由常務理事、須田治樹 GP 認定審査員、岡田賢造 GP 認定審査員、全国グラビア製版工業会連合会の高村敏夫会長、（一社）日本印刷産業機械工業会の里見和男専務理事、日本ポリプロピレンフィルム工業会の高井一郎会長、軟包装衛生協議会の坂田 亮常務理事、植松正浩事務局長、(株)商工組合中央金庫押上支店の萩森宅治支店長、上野支店の松尾悟志支店長、(株)日本政策金融公庫営二事業統轄の大川篤義氏、東洋インキ SC ホールディングス(株)の佐久間國雄取締役会長、有田技術士事務所の有田俊雄所長、トータルプロネットの岡 利彦代表、日本包装専士会の西 秀樹顧問、賛助会員、組合員など総勢240名が出席しました。

はじめに全国グラビア協同組合連合会の田口 薫会長の挨拶、次いで来賓代表4名による祝辞、（一社）日本印刷産業連合会の杉村亥一郎専務理事による乾杯の発声で開宴しました。中締めは関西グラビア協同組合の竹下晋司理事長が務め、一本締めで散会となりました。今年の司会は関東プラスチック印刷組合の山崎邦秀専務理事が務めました。



山崎邦秀専務理事

## 会長挨拶

### 全国グラビア協同組合連合会 田口 薫会長

皆様、明けましておめでとうございます。令和2年の新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。本日は大変ご多忙のところ、衆議院議員の石原伸晃

先生、海江田万里先生を迎え、また、経済産業省商務情報政策局コンテンツ産業課の高木課長様、富田課長補佐様、狩野係長様、松島係長様においでいただきました。その他、お歴々たくさんいら



田口 薫会長



っしゃいますが、時間の関係上、省略させていただきます。

今年ほど課題の多い年はないと思います。今は令和の初めての新年会、去年は平成最後の新年会、その間にいろいろなことがございました。年号が改まるのだから、10連だから、さぞ盛り上がるかと思いましたが、全く盛り上がりませんでした。天候不順、商品在庫は積み上がるばかりで、夏は記録的な不調だったと私は思います。食品ロス削減推進法の成立、消費増税、コンビニの店舗展開がオーバーストアになったために1,000店舗、1,500店舗閉めるようなことなどがあったのではなかろうかと思っております。

ここ20年、日本経済は非常に停滞し、国民の所得は伸びるところか、減少の一途をたどり、いろいろなデータがありますが、フランスは1.7倍、アメリカは1.5倍と言われていますが、日本だけがマイナスという状況です。デフレですから、その波が商品のディスカウントにつながり、内需の伸びにブレーキをかけるということがあり、サプライヤーの経営は非常に悪化しております。我々はVOC、その他の規制に対してもしっかりと立ち向かい、規制をクリアしました。そして、品質も高難度化が進み、検査器の台数はどんどん伸びますが、残念ながら生産機は伸びていません。その中で、ほとんどの負担は我々が被っている状況です。顧客の安価要求に迎合するために人件費をカットし、法令を守るコストもカットするということが最近行われ、監督官庁から、操業停止命令を受けた例が複数ありました。こんな不祥事は起きてはなりません。先進国で唯一給与所得が下落している日本をなんとかするために、明治維新ではありませんが、日本のグランドデザインを作り直し、一定の給与アップができる仕組みを、ぜひ今日おいでいただいている、両先生にお願いしたいのですが、そんな簡単にはいかないと言われていました。

21世紀になると、サステナビリティという言葉を目にし、すでに20年経ってしまいました。そういった社会的要請に応えるために、日産産連では国連が掲げるSDGsから導き出した、「地球環境への配慮」「労働安全の確保」「多様性の尊重」、その他いろいろなことを重要課題として、その達成に向けた取り組みを開始しています。我々は傘下団体として、これまでもGP認定制度をグラビアが引っ張り、過剰品質、中身商品の返品、値引き等については石原衆議院議員に各官庁を紹介いただき、まだ十分ではありませんが、中小企業庁や、公正取引委員会の連携、ご指導があり、一定の成果の兆しが出ています。

我々の生産物は印刷して終わりではありません。中身の商品を包んで、消費していただき、ゴミ箱へ収めていただき、始めて使命を果たすもので、非常にハイリスクです。吟味に吟味を重ねてお届けしますが、刷りっぱなしという訳にはいきません。安い加工賃であっても、クレームは付きます。安いからローリスクではありません。ハイリスクローターンです。ここを認識して、品質保証をしっかりと行う。そして、法令を遵守することは基本です。今年は業界全体として、最大手の印刷会社にも了解をいただき、材料メーカーにも協力いただき、新たに「軟包装イメージアップキャンペーン」を立ち上げていきます。座視しているだけでは我々は救われません。社員も生活に困ります。

昨年から巻き起こりました、プラスチック廃棄問題。本当に地球温暖化や海洋汚染を食い止めないといけません。プロとして何をすべきかをしっかり考えないといけません。我々動脈産業としてモノを作っているだけはいけません。なんとか静脈産業的なことをやらないといけないということで、たまたま、オランダにフィルム洗浄機があることを三井化学さんに教えたところ、すぐ導入され、おそらく1月中には入ると思います。これ

により、印刷済み廃棄フィルムを洗浄、インキを除去し、再生樹脂としてリサイクルします。今まで地下資源を掘ってやってきましたが、これからは都市資源を使うべきと、有田先生もおっしゃっています。このヒントはいろいろあるかもしれませんが。ものづくりの動脈産業だけでなく、それをリサイクルする静脈産業を急ぎ育てていかなければなりません。

それから、人手不足の問題もあります。外国人技能実習制度の職種認定にグラビア業種を新たに認めていただくために大変な、びっくりするくらいエネルギーがかかっています。経済産業省から応援していただき、へとへとになりながらも進めています。今日も理事会で質問がありました。「いつになったらできるんだ」と言われても、私どもでは見通しがつきません。ハードルが出ればひたすら乗り越える。なかなか大変でございます。ご協力いただいている赤穂昌之副理事長にはご負担いただき、申し訳ないと思っております。しかし、来ていただく研修生には安く使うのではなく、手厚い指導をしてやっていこうと思っております。

今年は東京オリンピック・パラリンピック開催の年です。日本の良い品質、素晴らしいパッケージに触れていただき、こんなおいしい加工食品はどこにもないはずです。日本の味付け、その他素晴らしいと思います。これが外国に輸出されることがあればいいなと思っております。そういうチャンスでもあります。

全国グラビア協同組合連合会は、いろいろ変化する社会的ニーズに正面から立ち向かい、会員各社の地位向上を目指してまいります。皆様のご鞭撻、ご支援をお願いする次第でございます。終わりにあたり、今年がこちらにいる皆さん、会社、団体、その他の方々にとって、幸せなラッキーな年になりますように、お祈り申し上げます。

## 来賓祝辞

### 衆議院議員 石原伸晃氏

皆様、新年、改めましておめでとうございます。私はこのグラビアの新年会、毎回、海江田万里先生とお招きいただき、大変楽しみにしています。それはなぜかというと、田口会長の今のお話は大変



石原伸晃氏

身につまる思いであり、日本の抱える問題を的確にご指摘され、なんといってもグラビア、あるいはプラスチック印刷業界の皆様方の景況感が日本の経済の参考資料だと私は考えるからであります。そして環境問題。印刷についても、廃プラスチックについても、古くて新しい問題ですが、先進的な取り組みによって、サステナブルな業界運営をしてくださっています。これが中進国であるならば、皆様方の業界はそういうことをしない業者の集まりになると思います。

そういう意味でも、2020年、令和になり初めての新年会、そしてオリンピック・パラリンピックイヤーでございます。もちろん、オリンピックでアスリートの方々が、パラリンピックでパラリンピアンの方々がメダルを取って国威を発揚することは重要ですが、外国からおいでいただき、多くの観客の方に日本の2020年以降の姿、もちろん田口会長のお話の中にありました、大変おいしいものが、身近に廉価に買えて、しかもパッケージはきれい、見たことないような美しさに彩られている。今から56年前の東京オリンピックもうそうでしたけども、オリンピック後、加工組立、電気、自動車、こういう分野で世界をリードしていった。

これと同じように、難しい時代ではありますがけれども、私達は世界に対して示していく、そんなオリンピック・パラリンピックにしていかなければならないと思います。皆様方の業界も田口会長のお話にあったように、サステナブルで環境に配慮して、世界の中で誰も真似することができない素晴らしい技術を技能実習生や、外国の方がこんなに素晴らしかったということをお土産に持ち帰る、そういう機会になるのではないかと考えております。

可処分所得が減少しているという話は、まさに身につまされる思いでございますが、今、1人当たりの所得はOECD34カ国の中の真ん中に来てしまいました。今から20年前、30年前は2番、3番手という状態でした。それがデフレというぬるま湯の中で、また働き方も変わって、ダブルインカムになるという中で、私達は田口長がご指摘された原点に立ち返るといっても忘れてはならないと今日は感じることができました。

ご来会のグラビアに関係する皆様方のご生業のご発展と、お集まりの皆様方のご健勝を祈念させていただきます。簡単ではございますが、石原伸晃のお祝いとさせていただきます。今日は本当にお招きありがとうございました。

## 衆議院議員 海江田万里氏

皆様、明けましておめでとうございます。先だって、印刷産業全体の新年会がありまして、何人かご出席いただいた方もいらっしゃると思います。この皆様方が元気になれば日本の経済は、日本の産業は元気にならな



海江田万里氏

いと実感したところ。その全印刷産業の中の中核的な役割を占めているグラビア印刷、プラスチック印刷の皆様に対して心からの敬意を表したいと思います。

今、石原先生からもお話がありましたが、本当は私と石原先生は一緒にやっていた機会があったわけですが、残念ながら別れてしまいました。ただ、特に中小企業をなんとか元気にしたいという思いでずっとやってまいりました。今日、経済産業省の方がたくさん見えておりますが、今の経産省の次官が中小企業庁の長官、関東の経産局の局長もやっていたから、石原先生でも私も構いませんので、中小企業には格段の思い入れがあると思いますので、どしどし言っていただければいいのではと思います。

今、皆さん、環境問題に非常に力を入れております。これは、どれだけ早く、環境問題に力を注いでいくかにより、産業が生き延びていくことができるのではないかと考えています。と申しますのは、今、ものづくりがピンチに陥っています。ドイツの経済がふるいません。この理由は何か。ドイツバンクの問題も金融問題としてありますが、環境問題への対応に失敗したからです。ご承知のように、フォルクスワーゲンが環境規制をごまかしましたよね。これが大きな痛手になり、信用されなくなり、フォルクスワーゲンが元気をなくして、それによりドイツのものづくり産業が元気をなくしたんです。

ともすれば、環境問題は経済と相反する、経済成長の発展に対して、阻害要因になるのではないかと考えがちですが、もう時代は変わりました。環境問題に少しでも早く取り組んで、独自の新しい製品、技術を開発することにより、これからの時代を生き延びていくことができるのではないかと考えております。その意味では、田口会長がお話の中で環境問題に触れたということは非常に大

切だと思っています。

実質賃金が上がらない理由はいろいろありますが、よく安倍さんが、景気が良くなった指標に必ず有効求人倍率のことを挙げます。麻生さんも言うし、このあいだは日銀の黒田総裁も同じことを言っていました。有効求人倍率が上がったことを経済が上手くいっている手柄のように言うのではなく、まさに人手不足の問題であって人口構造が変わってきたことにあるのですから、確かに経済の回復によって有効求人倍率が上がった部分もありますが、根っここのところでは人手不足、人口構造が変わってきたことに着目して、それに対する取り組みをしっかりとやっていかなといけないのではないかと思っています。

また、話したいことはありますが、これ以上話すと、石原先生もわざわざ私のために待っていてくれていて、乾杯の時間が遅くなりますから、このくらいにしますが、また皆様方とはいろいろな意味で意見交換させていただきたいと思います。いろいろな要望があったらおっしゃってください。ありがとうございました。

## 経済産業省 商務情報制作局 コンテンツ産業課 高木美香課長

皆様、明けましておめでとうございます。まず始めに、全国グラビア協同組合連合会の賀詞交換会が盛大に開催されますことを心よりお慶び申し上げます。

私ども、コンテンツ産業と、印刷業、広告業を所管しておりますが、コンテンツのデジタル化に伴いということもありますが、印刷業が全体として、紙の印刷物がかなり減っている中で、軟包装材を中心としたグラビ



高木美香課長

ア印刷、パッケージ印刷は堅調だと聞いてきておりました。ただ、先ほど田口会長がおっしゃったように、消費需要にかなり影響されるということもあるので、厳しい状況もあるだろうと思っています。それから、昨今のプラスチック問題で、プラスチックの需要も今後、厳しくなってくる面もあると思っています。

そんな中で、先ほども言及がありましたけれども、印刷済みフィルムの洗浄とリサイクルという取り組みを先陣を切って取り組まれているというご努力に敬意を表したいと思います。もともと、VOCの排出削減、GP認定工場の認定取得も全国の印刷業の中で、グラビア印刷はかなりの割合を占めているということで、皆様のご努力の賜物だと思っています。

昨年、田口会長のご案内で、大日本パッケージさんに視察に行かせていただきましたが、食品や医療向けとなると相当厳しい顧客からの要求がある中で、そのシワ寄せをどうしても印刷会社として受けていることもよく分かりました。経済産業省では昨年11月から全国の印刷事業者の方々にアンケートを配り、今、1,000票回収して分析をしているところですが、日本の印刷業の取引を中心に実態調査をして何ができるかを、今後専門家の方々、全国グラビア協同組合連合会を含めた印刷業の皆様と議論させていただきたいと思います。

今年はいよいよオリンピックを開催するという事で、日本が世界中から注目を浴びることとなりますが、オリンピックの開催だけではなくて、それを通じて日本が世界の課題解決にどう貢献できるかをPRする機会と捉え、皆様の環境問題への取り組みもその1つとして大いに発信すべきものだと思っています。そうした面でも皆様と私ども、一緒できればと思っています。

それから、技能実習制度は遅々として進まないという苦言もありましたが、おそらく月末には何



らかの目処が付くのではないかと聞いております。来年のこの場では良いご報告があると期待したいと思っております。

最後になりますが、ここにお集まりの皆様のご健勝と、全国グラビア協同組合連合会の益々のご発展を祈念しまして、私の挨拶にさせていただきます。ありがとうございました。

## 賛助会員代表

### 東洋インキ SC ホールディングス(株) 佐久間國雄取締役会長

皆さん、明けましておめでとうございます。

今年は2020年、閏年。閏年はどういうことがあるのかなと見てみると、東京オリンピック・パラリンピック。それからサッカーの大会 UEFA EURO



佐久間國雄取締役会長

2020、国際博覧会はドバイで半年間開催。我々の業界では、展示会 drupa があります。それから閏年はなぜか選挙なんです。1月は台湾、2月はイラン、3月はイスラエル、4月は韓国、5月はエチオピア、11月が最後の締めで、アメリカ合衆国、ミャンマーなどがあります。こういう流れの中で日本は7月の東京都知事選。本当は衆議院議員も9月くらいに選挙があるのでとお二人にお聞きしましたが、これは追って分かることではないかと思えます。

先ほど田口会長が言われたように、こうした業界、オフセット業界よりグラビアの方がまだまし、と言っているのではないかと思います。環境問題、特にSDGsは、一民間企業といえども協力しなくてはいけない。17のゴールがあるので、とりあえずは足下の環境問題やりサイクルの問題、海

洋プラスチックの問題といったことを皆さんと一緒にやっていきたいと思っております。

たまたま、今朝早く起きまして、テレビを付けましたら、5時46分が阪神・淡路大震災から25年ということで、早いものだと思いました。ただ、神戸の地場産業が震災の結果、マイナスにしている。そういう点で、日本全体を明るくするのはものづくり。会社が頑張らねばならないと、改めて感じております。

終わりにあたり、皆様のご健勝とご発展をお祈りしまして、簡単ではございますが、私の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

## 乾杯

### (一社)日本印刷産業連合会 杉村亥一郎専務理事

皆様、明けましておめでとうございます。本日は賀詞交換会にお招きいただき、ありがとうございます。また、日頃は私も日印産連の活動にご理解とご支援を賜り、感謝申し上げます。



杉村亥一郎専務理事

田口会長はじめ、皆さんが触れられていた環境についてです。日印産連では国連の提唱するSDGsの考え方を基に活動しております。その中でも最も大切なものとして、環境配慮の活動を進めています。私どもとしても、印刷産業の自主環境基準であるGP認定制度を核に活動しています。これは印刷会社が独自に決めた基準で、印刷工場がしっかり環境に配慮して、良い製品を作ろうという制度です。今回、この制度が発足以来初めて、大手印刷会社も制度に加わり、サプライチェーン全

体で印刷産業の環境負荷低減に取り組もうというものです。ここまでたどり着けたのも、ここにいらっしゃるグラビア業界の方が熱心にこの活動に加わってくださり、ときにはリードしてくださったと思っております。大変感謝しております。今年もここにいらっしゃる皆様と日印産連が協力して、印刷会社が元気になるよう務めてまいりたいと思います。

## 中締め

### 関西グラビア協同組合 竹下晋司理事長

今日は、この会の前に、全国グラビア協同組合連合会の理事会が開かれました。ものを言う理事会にどんどん発展している素晴らしい理事会になっていますが、安永研二副理事長のおかげもあり、行動する理事会、全国グラビア協同組合連合会に発展してきています。それが、田口会長が先ほど言った、イメージアップ宣言です。

すべての石油の輸入額、輸入トン数からすると、どれくらいのパーセンテージがプラスチックに変換されているか、皆さん、おそらくご存じないと



竹下晋司理事長

思います。ある大学でアンケートを採ったところ、ほとんどの方が30%前後と回答していました。実は3%っていません。それ以外はエネルギーに使われています。3%だから何もしない訳ではございません。私達は環境問題に対して、真摯に取り組んでいけないといけません。その一環として、私達は今まで自己満足の世界だったかもしれない、それを外に発信していきます。この軟包装業界がなければ、食品メーカーさん、製薬メーカーさん、化粧品メーカーさん、皆さんの手元に物が届かない。こういった重要なインフラ部分を私達は扱っている。これを発信していこうというのが、今日の革新的な議題でした。そのためには、ここにいらっしゃる皆様方のお力添えがなければ全くできません。私は異業種交流会などいろいろなところで、「プラスチック悪説はおかしいですよ」ということを発信しています。ここにいらっしゃる方々が、いろいろな人に「そうじゃない」ということをどんどん広めていただければ、それだけでもプラスチックが、我々の軟包装業界が必要だということのイメージアップにつながっていくと思います。

そこを切にお願いしまして、甚だ簡単ではありますが、私の中締めの挨拶とさせていただきます。ここにご列席の皆様のご健勝、ご多幸、なによりもこの軟包装業界が地位向上、世の中に知らされていくような組合になることを祈念して一本締めで終わりたいと思います。

### 賀詞交歓会参加予定者

#### 賛助会員・関連業界（順不同、敬称略）

サカタインクス㈱：森田耕太郎、西田利行、筒井 毅、中崎 智、木次 真  
大日精化工業㈱：高橋弘二、一関昌文、佐々本文明、田端隆宏、宇賀神 均、光野功一  
東洋インキSCホールディングス㈱：佐久間國雄、北川 克己  
東洋インキ㈱：山崎克己、山岡新太郎、前田浩之、藤田一浩、小宮洋一、吉野克宏、辻 一彰  
㈱T & K TOKA：戸谷 豊、上地一弘、殿村誠一

東京インキ㈱：高松典助、飯山富晴、中島文伸  
DICグラフィックス㈱：坂本直繁、松本健士、中野健一、堀口宗利、松本雄宇  
大阪印刷インキ製造㈱：坂口 寛、広瀬 勝  
富士機械工業㈱：和田隆雅、和田龍昌、土方 猛、齊藤 修、峯崎善仁、安武貞之  
㈱オリエント総業：原田秀典、檜山栄一、大島久典  
岡崎機械工業㈱：岡崎太平、北瀬静成、中村秀男、大西 仁  
三菱ケミカルエンジニアリング㈱：梶沼大路、風間 圭、駒形 稔

賀詞交歓会参加予定者

㈱サンヨーケミカル：川口 豪  
 ㈱シンク・ラボラトリー：重田龍男、重田 核  
 富士フィルムグローバルグラフィックシステムズ(株)：  
 辻 重紀、増田孝浩、奥野 敬  
 ㈱ヒューテック：片山 勤、谷澤照弘、丸山隆俊  
 太洋電機産業(株)：横田 勤、瀬平文義、岩瀬 諭、仲川 稔、  
 北澤 豪、高田広満  
 領家工業(株)：横山重徳、佐々木勝美  
 FFGS グラフィックサブライ(株)：加藤好洋、北 昭彦  
 日大グラビヤ(株)：近藤 猛、滝川欣也  
 ㈱カスタムグラビア：山田康行、西谷朝香、中村義人、  
 兼子 進  
 ㈱東伸：藤吉英紀、藤吉繁子、水野寿政  
 出光ユニテック(株)：上杉 隆、小澤隆弘  
 日本エスケイ(株)：金子高人、北島慶嗣、打浪康哉  
 東京計器(株)：鶴沢正光、川上 温  
 新生紙バルブ商事(株)：浦川鉄舟、漆原裕則  
 ダックエンジニアリング(株)：氷上好孝、長谷川直哉  
 三井化学東セロ(株)：宮内芳郎、木村晃一  
 東洋紡(株)：堀 浩平、畔野達治  
 ㈱宇宙情報システム：立花弘一、新保 弘  
 ㈱オリオン商事：千明直也  
 大伸化学(株)：遠藤次郎、吉田 巧  
 総武機械(株)：大竹茂好、鈴木将仁  
 フタムラ化学(株)：田川茂樹、山下浩司  
 ㈱かつみ：達 拓也  
 ㈱GSIクレオス：雲宝大輔、安村公秀  
 ㈱ユニオンテック：近内利一、松本謙一、白井英之、  
 小野部康一郎  
 ツカサロール(株)：梁本秀憲  
 ㈱ソオエイ：中尾好宏  
 ㈱コンゴ：井上陽介  
 三光アルミ(株)：伊藤元喜  
 東洋インキグラフィックス(株)：藤本敦之  
 東洋モートン(株)：安藤誠康、浜崎洋行  
 ㈱ニレコ：中村洋三、小野 功、谷口征也

組合員

北海道グラビア印刷協同組合

彫刻グラビヤ札幌(株)：金谷益孝  
 三王ポリ(株)：井手信治

関東グラビア協同組合

㈱イシトク：藤井 勝、斉藤孝仁  
 音羽印刷(株)：宮原一郎  
 ㈱巧芸社：山下雅稔  
 大日本パッケージ(株)：田口 薫、諸石武士、須藤 充  
 東京加工紙(株)：吉原宗彦

㈱東京ポリエチレン印刷社：千田 敦  
 東包印刷(株)：安永研二  
 トーホー加工(株)：川田雄治  
 ㈱日商グラビア：赤穂昌之、山下博正、小山 博  
 日本パッケージング(株)：湯本雄一、守屋秀樹、佐藤信逸、  
 新井賢二  
 ㈱カナオカ：小谷昌章  
 橋本セロファン印刷(株)：橋本 章、住吉 繁  
 中本パックス(株)：向井忠行、土井光雄  
 たちばな印刷(株)：山口元一  
 ㈱雄進：山本浩正  
 八潮化学(株)：小林直人、荻原 徹、鈴木博之  
 ㈱東和プロセス：福島 潤  
 東洋FPP(株)：川島大幸、水出裕幸  
 三洋グラビア(株)：原 敬明、渡辺直樹、原 卓実  
 北上産業(株)：阿部 純、阿部 進、阿部孝司  
 ㈱千代田グラビヤ：佐藤裕芳、鈴木宏賀司  
 ㈱ボンバック：伊牟田克典、新隈浄史  
 信和産業(株)：村野友信、村野 剛、西川賢治  
 信和工業(株)：横尾信一郎、百瀬幸二  
 ㈱精工：林 健男、加川直樹

関東プラスチック印刷協同組合

㈱多連堂：石井 純  
 ㈱セイユー：大月裕樹  
 東和グラビヤ印刷(株)：小金澤和夫、小金澤清隆  
 ㈱トーショー：東 勇一  
 ㈱トリネックス：渡辺文武  
 ㈱山崎プリント：山崎邦秀  
 ㈱フタミ：神南一宜

埼玉県グラビア協同組合

㈱佐伯紙工所：佐伯鋼兵  
 ㈱ダイト：市村清一

東海グラビア印刷協同組合

㈱石井：石井良明  
 大和産業(株)：浮田信也

北陸グラビア協同組合

賀谷セロファン(株)：賀谷真尚  
 アートパックス(株)：織田憲三

関西グラビア協同組合

㈱ダイコー：竹下晋司  
 ㈱北四国グラビア印刷：奥田拓己  
 日新シール工業(株)：堀川 昇、吉成公一、中田善規

九州グラビア協同組合

㈱三裕商会：中村政晃  
 ㈱平野屋物産：母里圭太郎

Snapshot





Snapshot



Snapshot

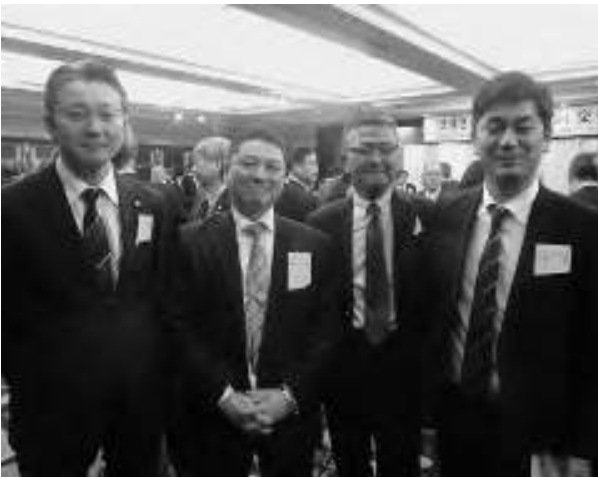


Snapshot





Snapshot





# 日印産連2020年新年交歓会

## 地方創生、印刷会社が地域社会に貢献を

2020年1月8日(水) 午後4時30より、(一社)日本印刷産業連合会(日印産連、金子眞吾会長)は東京・The Okura Tokyo(旧ホテルオークラ東京)で2020年新年交歓会を開催した。当日は10団体会員、経済産業省、来賓など650名が参加した。



金子眞吾会長

はじめに、金子会長が急速に変化する社会や産業の転換期に対応するため、日印産連のグランドデザインと国連のSDGsの考え方を基本に、さらに事業を進めていくとし、重点テーマである地方創生については、全国

の印刷会社がビジネスパートナーとして地域活性化に関わり地域社会に貢献できるよう、事業を進めていくと述べた。また、地球環境配慮については、日印産連の環境自主基準グリーンプリンティ



小笠原陽一審議官

ング認定制度を核に工場  
の環境対応を進めると新年の挨拶を行った。

引き続き、来賓から、経済産業省商務情報政策局の小笠原陽一審議官が登壇し、祝辞を述べ、(一社)日本印刷産業機械工業会の宮腰 巖会長による乾杯の発声で歓談に入った。宴もたけなわで、会員10団体の会長が登壇し、全日本スクリーン・デジタル印刷協同組合連合会の内藤正和会長が中締めを行った。

る乾杯の発声で歓談に入っ



会員10団体の会長